

i-農力だより

2019年春号 (153号)



ごあいさつ.....	P.2	季節のご相談から.....	P.12
農業 TOPEYE	P.3	読者プレゼント.....	P.13
農家さん訪問記.....	P.5	編集後記.....	P.13
ムシできない虫の話.....	P.9		



(農業 TOPEYE) 東京促成青果株式会社
代表取締役社長 大竹 康弘 氏



茨城県稲敷市 助川功将さん

ごあいさつ

住友化学株式会社 理事・アグロ事業部長 藤本 博明



春本番の到来により、あたたかな日差しがふりそそぎ、まばゆい新緑が芽生える季節となりました。皆さまにおかれましては、田植え作業や日ごろの農作業にお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。そのようなご多忙の中、平素より弊社および弊社グループの農業関連資材のご愛顧、そして「i-農力だより」のご愛読を賜りまして誠にありがとうございます。

皆さまご高承のとおり、先般、政府より新元号が公布され、いよいよ来月5月1日より「令和」の時代が始まります。安倍首相は談話の中で「見事に咲き誇る梅の花のように一人ひとりが（中略）それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたい」と新元号に込めた意味を話されました。

農業の現場もまさに、様々な作物がこれから花を咲かせ、実を結ぼうとしている——そんな時期でもあるのではないのでしょうか。

私ども住友化学アグログループでは、「あらゆる場面で日本農業を支え、生産者の第一ブランドになる」という目標を掲げ、大規模化・省力化・低コスト化のための技術や資材の開発、生産者や産地に対するきめ細かな技術普及、スマート農業を通じた農業現場のICT化支援、コメ事業を通じた産地への種籾・農薬・肥料の提供、栽培技術のサポート、生産したコメの全量買上げ・販売までの支援そして、農産物販売支援等々、グループ各社が連携したトータルソリューションプロバイダーとして、日夜事業に取り組んでおります。

新年度を迎え、また「令和」という新しい時代の幕開けに際し、農業現場の皆さまそれぞれが大きく花を咲かせるために——「i-農力だより」も今まで以上にお役に立てるトピックスや豆知識などの情報を満載していく所存でございます。この記念すべき「令和元年」に、皆さまの農業がとりわけ実り多き一年になりますよう、衷心よりお祈り申し上げます。

今後とも住友化学アグログループならびにi-農力ホームページに対しまして、引き続き皆さまのご支援・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお祈り申し上げます。



農業

≡ TOP EYE ≡

第6回

「農業 TOP EYE」は、経営・農業機械・人材教育・販売などをテーマに、多彩な業界のキーパーソンにインタビューし、農業経営に役立つ情報をお届けするコーナーです。

第6回は、スーパーやコンビニエンスストア、外食チェーンなどへの青果物卸・仲卸業を展開し、当社関係会社の住化アグロソリューションズとの取引会社でもある、東京促成青果株式会社の代表取締役社長 大竹康弘氏にお話を伺いました。

産地と量販店をつなぐコーディネートや、食育・フードロス問題にも取り組み、「食」の社会貢献をめざします。



東京促成青果株式会社

代表取締役社長

大竹 康弘 氏

東京促成青果株式会社の大竹社長（本社にて）

スーパーマーケットなどの量販店では、青果物のニーズにどのようなトレンドがありますか。

大竹社長 長引くデフレの影響を受けて「低価格志向」が続いているのが現状です。しかしながら、昨年の秋から青果市場の野菜相場は低迷しており、市場の卸価格が低い割にはスーパー等の量販店の小売価格は下がっていません。消費者の財布もなかなか緩むことがなく、店頭の商品が動きにくい状況が続いています。また、物流費が上昇している関係で、地産地消をめざす産地が増えている傾向にあるので、道の駅など地場に根付いた産直販売拠点は、今後増えていくかもしれませんね。

野菜相場が低迷している背景には、どのような理由があるのでしょうか。

大竹社長 市場の野菜相場は3～4日あるいは1週間ぐらいのサイクルで変動しています。変動の要因は、天候による作況や輸入状況など様々です。例えば、今年の冬は東日本で雪が多く、レタスの出荷量が減った分を輸入レタスで補いましたが、2月にはカラッとした天気が続いたので

九州のレタス産地からの出荷量が増え、輸入ものとぶつかって相場が急激に下がったんです。また、はくさいの相場低迷も去年の夏ごろから続いており、豊作だったにもかかわらず、暖冬で鍋物などの需要が伸びなかったという需給バランスの不一致が影響しているようです。

トマトなど果菜類の相場についてはいかがでしょうか。

大竹社長 トマトは10月が産地リレーの端境期でモノが市場に少ない時期ですが、それを超えると産地間競争で出荷量が一気に増え、値崩れしやすいんです。レタスやはくさいなどの葉菜類は、圃場に植えたままである程度は出荷時期を伸ばしたり調整することができますが、トマトなど果菜類は過熟になると商品価値がなくなるので適期に収穫せざるを得ません。だから、果菜類は市場にモノがある時期とない時期を繰り返し、相場が変動しやすい。こうした事情から、どうしても果菜類の相場と産地側の再生産可能価格^{*}にギャップが生まれてしまうんですね。

※再生産可能価格：生産されたものから得た利益を基にして、また新たな生産を行うことができる販売価格

機能性表示など付加価値をつけた野菜が増えてきましたが、どのようにお考えですか。

大竹社長 例えば近年、機能性表示をしたトマトを店頭でも見かけるようになりましたが、一般的なスーパーでは、「10円の価格差ならトマトのメイン売り場の横に並べてもいいけど、100円の差があったら棚の端っこの方に数パックあればいい」なんていう扱いになるんです。良くも悪くも相場が影響するんですよ。もちろん、こうした量販店の考え方は、デフレ傾向を背景とした低価格志向が大きな影響を及ぼしていると思います。

百貨店や高級スーパーなどの量販店では、どのようなトレンドが見られますか。

大竹社長 百貨店では野菜やフルーツのブランド化に熱心ですが、農産物、特に野菜は季節や年によって味や品質に差が出やすいので、厳密なブランドの維持が難しい。高級量販店が消費者に支持されている理由は、産地ブランドというより、むしろそのお店のブランドネームによる付加価値感や、このお店のモノだったら間違いなしという安心感なのではないでしょうか。

自戒も込めて申し上げるのですが、百貨店などの高級量販店が取引をしている卸売業者は、野菜やフルーツといった旬の青果物のPR戦略がまだまだ消費者のライフスタイルに追いついていない感があります。これからの時代は、私どものような卸売業者もウェブサイトはもちろん、ツイッターやフェイスブックといったSNSを上手に活用して、高級量販店での集客アップをサポートできるような活動を展開していかなければならないと思っています。

選ばれる産地であるためのポイント、条件は何ですか。

大竹社長 最大のポイントは、量販店さんが望む「品目・出荷時期・出荷ロット」を満たせるかどうかです。弊社ではバイヤーさんから「去年、欠品で痛い目にあって…」なんていう相談をよく受けますが、私どもは常に産地に対してアンテナを張っているので「こんな産地がありますよ」と紹介できる。産地には、すぐにバイヤーさんを直接連れていきます。人間同士のフィーリングや情みたいな感覚もあって、そのほうが話が早いですからね。そうしたフットワークの良さが、産地と量販店を結ぶ卸・仲卸会社である弊社の強みでもあります。

それから、物流も重要なポイントの一つだと思います。いちから物流を構築するとなると時間もかかるし、リスクも派生しやすくなるので、物流がきちんと構築されている産地であることが大事ですね。また、相場の変動に対応しや

続きは i-農力サイトへ

ファッションモデルも
こなしつつ
地域貢献も忘れない。
農業ライフの個性が光る。

農家さん
訪問記

第137回

茨城県稲敷市 助川功将さん

自宅はまるで映画のセット!? 薪ストーブでほっこりと

季節は初春——彼岸を過ぎたにもかかわらず、冬に逆戻りしたかのような寒さに身を縮めながら取材先に向かう。私たち取材チームの目に飛び込んできたのは、アメリカンテイストのアート感あふれた一軒のログハウスだった。そう、その個性的でお洒落なデザインの家のあるじこそ、



お店のようなオープンキッチン（左）と薪ストーブ（右）



水稲農家の助川さんだ。

私たちが家の中に迎え入れてくれた、その優しい笑顔と薪ストーブのぬくもりに、身も心も温まる。リビングダイニングには、まるでハリウッド映画に登場するようなお洒落なアメリカンカジュアル調の空間が広がっていた。

39歳になるという助川さんは、奥様のご両親やスタッフとともに35haの水稲を手がけている。乾燥・調整までを行い、地元の米穀集荷店である宮本商店に出荷。来年には近所の生産者仲間と共同で株式会社エヌエスファームをスタートする予定だ。

バスフィッシングのプロとの二足のわらじを脱ぐ時が来た

助川さんは和歌山県出身でサラリーマンの家庭に生まれ、その後、茨城県鹿嶋市の冷凍機メーカーで6年間エンジニアとして過ごした。そのころに知り合ったのが、水稲農家の長女である



来年は株式会社エヌエスファームをスタートする

現在の奥様だ。24歳での結婚を機に本格的に就農し、奥様のお父様に教を請いながら、水稲栽培を学んできたという助川さん。

釣り好きの方ならご存知かもしれないが、「バスプロ」という職業がある。「バスフィッシングプロフェッショナル」のことで、ブラックバスのフィッシング大会の賞金やスポンサー契約などで収入を得るバス釣りのプロだ。助川さんは幼少のころから釣りが好きで、小学生になる頃には将来プロになりたいと考えていたという。話が回り道したが、助川さんは結婚と同時に就農したものの、25歳で念願のバスプロになり、副業的に活動

をされていたらしい。しかし、7年前、その二足のわらじをはいた生活に転機が訪れる。農業の師匠だった奥様のお父様が病に倒れ、農作業で無理ができない状態になってしまったのだ。

「そのときに覚悟を決めたんです。これからは農業だけで生計を立て、自分がみんなを支えていかなきゃって。それでバスプロも引退して、農業に専念することにしました。お義父さんからの知識だけではなく、若い仲間からの情報も積極的に取り入れなければと思い、担い手の組織に参加することにしました」。

助川さんが参加したのは、農業資材のパートナーでもある宮本商店が中心となって結成された「MAC*若手育成会」。若い生産者20名が参加し、肥料・農薬や税務申告関連の勉強会の定期的開催や、情報交換を行っている。

* MAC = Miyamoto Agri Club

毎年データを取りながら単収向上に試行錯誤

あきたこまちを19ha、コシヒカリを10ha作付する助川さんが重視するのは、あきたこまちの「単収」とコシヒカリの「食味」。とりわけ、メイン品種であるあきたこまちの単収向上には試行錯誤を繰り返してきた。当初は追肥を施用せず基肥



トラクターの奥には、乾燥・調整施設が見える



今年からプール育苗にチャレンジ。
管理の省力化に期待がかかる

の一発肥料のみ施用してきたが、単収は地域の平均 8.5 俵どまり。それをブレイクスルーできたのは追肥を 2～3 回施用するようになってからだ。

「出穂直後に 1 回、あとは葉色を見ながら必要に応じて 2～3 回追肥を施用するようにしました。地域の平均 8.5 俵から 9 俵にもっていくのは比較的簡単なんです。でも、それを 9.5 俵とか 10 俵にするのがすごく難しい。チッソ肥料を追肥で入れ過ぎると倒伏しちゃうし、早めに入れ過ぎると病気になりやすい。入れる量や頻度、時期のさじ加減が微妙なんです(笑)。だから、毎年データを取って、少しずつ追肥の量をギリギリのところまで増やしてきました。現在はようやく平均で 9.5 俵獲れるようになりましたね」。

畦畔除草など地道な圃場管理で 地権者への感謝をカタチに

一方、コシヒカリ栽培の課題は、いかに食味を上げるか。チッソ分は基肥のみで、追肥には投入しないそうだ。稲刈り後の鶏ふん投入に加え、今年の予定としては、田植え直前にケイ酸肥料、出穂 40 日前ごろにはリン酸肥料を施肥することで食味向上に注力するという。しかし、その単収や食味の追求以上に、常に心がけていることがあるそうだ。奥様から淹れていただいたコーヒーを味わいながら、その“心がけ”について伺うことにした。



「地主さんへの感謝の気持ちを忘れてはいけない」と助川さん

「うちの圃場の 9 割は、周りの地主さんから借りているものです。だから、チッソをやりすぎて倒伏させるわけにはいかない。水田雑草や畦畔の雑草もきちんと管理して、見た目の景観もきれいに保っておかないといけません。来年法人と一緒に立ち上げる仲間とも、『面積を拡大して手が回らなくなって、田んぼが荒れるぐらいなら面積を減らそう』ってよく話しています。地主さんへの感謝の気持ちを忘れちゃいけないんですよ。だから法人化しても、任せて良かったと地主さんに喜んでもらえるように、従業員をきちんと確保しながら田んぼを管理していく義務があると思っています」。

GPS 搭載の田植え機で 作業スピードがガンとアップ!



田植え機のアーム天頂部には GPS を装備



台風による倒伏リスクが高い飼料用米の「夢あおば」の面積を減らし、あきたこまちの面積を増やしたいと助川さんは話す。しかし、あきたこまちは稲刈り後に発生する2番穂が長く伸びるので、そのまま耕起すると、地表からはみ出して分解が進まずガスが発生したり、代かきがしにくいなどの課題があったそうだ。そこで、昨年から残茎処理用のロータリーである「フレールモア」を使い、2番穂を細断して圃場にすき込むという作業を導入した。その結果、「ガスが発生しなくなり、今までの代かき作業も楽になった」と助川さんは振り返る。

また、GPS搭載の田植え機を導入し、田植えの直進工程を自動化したことで、運転席から離れて他の作業が行えるようになり、田植え作業の省力化が進んだ。以前は1日2haの田植えが限界だったが、現在では1日3.5haにスピードアップ。ドローンによる農薬散布も視野に入れながら、農作業ICT化にも余念がない。



モデルの顔も持つ農家。
決して多くはないはずだ

農業はやりがいのある仕事 だから見た目もすごく大事

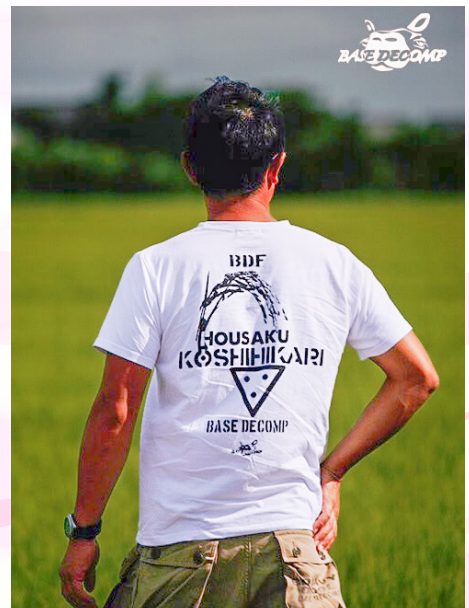
スタイリッシュな雰囲気を持つ助川さん。実はファッションモデルとしての顔も持っている。バスプロ時代に契約していたスポンサーとのコネクションで、ネット販売を中心に展開するアパレルメーカーのモデルとして、不定期ではあるが活躍中だ。そのアパレルメーカーのラインナップの一つとして、農業をコンセプトにしたTシャツがある。きっかけは、メーカーのデザイナーが助川さんの作業場で稲摺りを体験したこと。

「3年前に稲摺りの手伝いをしてもらったときに、彼はお米には一等米や二等米といった等級があるのを初めて知ったんです。それがきっかけで、稲穂のイラストと『一等米』などのキーワードをロゴにしたTシャツシリーズが製品化さ

れた。このTシャツが、『農業ってなんかカッコいい』と若者に感じてもらい、農業を好きになってもらうきっかけになるといいですね」。

地域の農業をいかに盛り上げていくか——農業は汚いというイメージを払拭して、若い人たちに『農業はカッコよくてやりがいのある仕事』と思ってもらうことが大事。そのためには、まず見た目を変える必要がある、と助川さんは熱く語る。

センスあふれるアメリカンテイストのご自宅、ファッションモデルもこなすその粋な生き方。なるほど、「農業をカッコいい職業に」という考え方は、助川さんのライフスタイルそのものにも投影されていた。



モデルを務めるアパレルメーカーとの
コラボTシャツ

ムシできない虫の話

フーン そうなんだ!

その⑫ 芝の害虫 1) シバオサゾウムシの生態と人工飼育

技術顧問 清水喜一

本来なら、前回のシリーズ「害虫の名前を知る方法」で取り扱うべき内容でしたが、相当以前の研究対象だったこともあって、芝の害虫のことをすっかり忘れていました。3回に分けて芝の害虫を紹介することにいたします。

我が国で芝の害虫が問題になるのは緑地や公園の芝よりももっぱらゴルフ場の芝だろうと思います。芝の害虫にはシバツトガやスジキリヨトウ、タマナヤガといった蛾類害虫やコガネムシ類がありますが、シバオサゾウムシ（写真1）というゾウムシの仲間も重要な害虫として知られています。

シバオサゾウムシは1979年に沖縄県で初めて発見された北米原産の害虫で、芝に混入して日本に侵入したと考えられていますが、正確な侵入時期や侵入場所については分かっていません。現在では各地のゴルフ場で発生し、ラフの野芝やフェアウェイの高麗芝で甚大な被害を発生させています。成虫が芝の茎葉部を、幼虫が芝の根と地際部を食害するので地上部が枯死し、枯れた部分の芝は地表面に乗っているだけの状態です。手でつかめばフワッと抜けてしまいますし、根が張っていないので秋から冬にかけては雑草を防止することもできません。（写真2、写真3）。

研究開始当初はこの害虫についてまとまった文献もなく、まずは雌雄の見分け方から研究を開始しました。



よるたて



写真1：成虫（シバオサゾウムシ）



写真2：高麗芝の被害



写真3：加害された芝に雑草が甚発生（右側）

成虫

成虫の体長は10mm前後、ゾウムシとしてはやや大きい部類に属します。雌雄が存在し、尾



写真4：雌雄の違い（右が雌）



写真5：飛翔寸前の成虫

端を見ることによって区別できます（写真4）。前翅は開閉し、しっかりした後翅も持っていますが飛翔することは苦手で、通常は歩いて移動する2次元生活をしています。高いところへ登って前、後翅を広げてグライダーのように滑空するこ

とはできますが、自力では高い方向へ飛ぶことができません(写真5)。ところが、飢餓状態になると盛んに飛翔行動を取るようになります。高いところから滑空して風に乗れば100m程度の移動は可能ではないかと考えられます。

雌成虫は芝の茎に口器(象の鼻のように見える部分の先端)で穴をあけ、180°回転した後にその穴の中に産卵します(写真6、7)。成虫の生存期間は長く1年以上生存することもあります。越冬成虫は5月から秋遅くまで産卵を継続して1雌あたり50~100卵程度を産卵します。昆虫としては非常に産卵数の少ない種類です。



写真6：産卵中の雌成虫



写真7：茎の中に産卵された卵



写真8：卵(右上2個は孵化幼虫)

卵

卵は長径1.6mm前後、短径0.6mm前後のジェリービーンズのような形をしています(写真8)。卵期間は25℃の定温条件下で6~7日です。

幼虫、蛹

幼虫に足はなく、ウジムシ状の形で、蛹はゾウムシの蛹と分かるような形態をしています(写真9、10)。

ほとんどの昆虫では幼虫の頭部外側は堅いキチン質で覆われていて、胴体が大きくなっても脱皮するまで頭の大きさは変わらず、脱皮してはじめて大きくなります。そのため、昆虫類の多くは頭幅を測ることによって幼虫の齢期を区別することが可能です。ところがシバオサゾウムシは孵化幼虫(1齢幼虫)の頭幅の変異が大きく、頭幅によって齢期を推定することは困難でした(写真11)。そこで50頭のふ化幼虫を個別に飼育して蛹になるまで毎日脱皮殻を探して幼虫の脱皮回数を調査しました。雌雄それぞれ19頭ずつが蛹となりました。雌では13頭が5齢を、6頭が6齢を経過しましたが、雄では18頭が5齢で蛹に、1頭だけが6齢を経過しました。幼虫の齢期は5齢と6齢が混在していることが明らかになりました。雌の齢期数の方が多い結果でしたが、成虫では特に雌の方が大きい感じは受けません。幼虫蛹期間は25℃条件下で約40日でした。



写真9：人工飼料で飼育した終齢幼虫



写真10：人工飼料で飼育した蛹



写真11：孵化幼虫の頭幅の変異

飼育法

成虫は野芝や高麗芝の茎葉を食害しますが、人工飼育条件下でイネの芽出し苗を与えたところ成虫は出芽した芽より籾内の玄米を好み、玄米そのものを食害することが分かりました（写真 12）。また、籾内に産卵することもありました。そこで成虫の飼料としては水に浸した玄米を使うことにしました。

玄米には産卵しないので産卵場所として各種イネ科植物の花茎を使ってみました。水に浸した玄米と同時に数 cm の長さに切った花茎を与えてみると花茎の中に産卵しました。この方法によって産卵数を調べたところ玄米を飼料とした場合、野芝の茎葉部を飼料とした場合と同等かそれ以上の産卵をすることが分かりました（写真 13）。

イネ科植物の中でもメヒシバとトールフェスクは花茎の中が中空となっていて採卵が容易です。トールフェスクは芝の 1 種ですが種子が飛散して道路法面や線路脇、河川敷等に繁茂しています。大量に採取することが容易だったので採卵にはトールフェスクの花茎を用いました。冷凍保存すればいつでも使うことができ、カッターナイフで縦に切れ目を入れておくと採卵も非常に楽になります（写真 14）。

籾の中に産卵された卵をそのまま放置しておいたところ、幼虫が孵化して籾の中で発育しているのを発見しました（写真 15）。そこで玄米を主成分とした人工飼料を作製し、幼虫の飼育を行いました。玄米以外の成分としては、きなこ、乾燥酵母、乾燥芝草葉、砂糖、寒天を用いましたが、かび対策に苦慮しました。防腐剤としては塩酸、プロピオン酸ナトリウム、デヒドロ酢酸ナトリウム、各種薬剤を検討しましたが、「ダコニール 1000」を主成分とした防腐剤の成績が良く、飼育後期飼料の防腐剤としました。飼育前半 2 週間ほどは幼虫が小さく防腐剤の影響も大きかったので蚕の人工飼料シルクメイトを用いて飼育を行いました。

この方法によってシバオサゾウムシを人工飼育できるようになり、飼育温度別の卵、幼虫、蛹期間や発育期別の耐低温性、1 雌当たり産卵数、幼虫越冬した幼虫の羽化時期、成虫越冬した成虫の産卵状況等を知ることができました。推定された生活史については次回説明いたします。



写真 12：籾米を摂食する成虫



写真 13：採卵用の飼育容器



写真 14：トールフェスクの花茎に産卵された卵



写真 15：籾の中で成長した幼虫

季節のご相談から

お客様相談室

1. 岡山県 農家の方

Q：ぶどうを栽培しています。最近、カミキリムシや他の食入性の害虫の被害が増加し、悩んでいます。効果的な防除方法を教えてください。

A：ガットサイドS、ダントツ水溶剤、ロビンフッド、ガットキラー乳剤による防除をお勧めします。4月頃からコウモリガ幼虫の食入が始まりますので、ガットサイドSを主幹部に塗布してください。7月頃にはブドウトラカミキリ防除でダントツ水溶剤を散布し、幼虫が食入した場合はロビンフッドを食入孔内に噴射してください。落葉後にはガットキラー乳剤を散布し、越冬幼虫を防除してください。ただし、ガットサイドSとガットキラー乳剤は収穫から次の収穫までの間、どちらも2回しか使用できませんので、ご注意ください。



2. 兵庫県 農家の方

Q：毎年、春先からたまねぎ（11月定植）のべと病が発生し、困っています。効果的な防除方法を教えてください。

A：たまねぎのべと病は育苗期や定植後に感染しますが、その後の低温期での発病は少なく、春先から気温が上昇すると発病します。まず、育苗期や定植後にダコニール1000、ベネセット水和剤を散布し、感染を防いでください。春先に発病した株は除去し、ダコニール1000、ベネセット水和剤を2週間ほどの間隔で散布してください。発病が続くようであれば、散布間隔を短くし、継続的に散布してください。なお、ベネセット水和剤は3回、ダコニール1000は6回使用できます。



3. 静岡県 農家の方

Q：昨年、越冬なすで、生育初期に鬼花が多く、苦土欠が発生しました。その改善策を教えてください。10a当たりの施肥量は、自家製もみガラ堆肥（成分不明）3,000kg、有機質肥料（0.6-0.7-0.5）400kg、スーパーSRコート越冬ナス1号（24-6-6、以下SSR）120kg、スミカエース1号（18-10-14）60kg、硫酸加里（0-0-50、施肥量不明）です。定植3週間後の土壤中の肥料成分は、施肥前土壤に比べて、無機態N（アンモニア性と硝酸性の合計）が45kg、Mg（苦土）は20kg増えましたが、K（加里）も101kg増え、Mg/K当量比（以下Mg/K）は施肥前の3.9が1.2に低下しました。

A：鬼花の発生は、N過多で、草勢が強いためと推測します。初期肥効には、堆肥、スミカエース、SSR、有機質肥料の順で影響しています。従って、対策は堆肥を1000kgに減らし、スミカエースを施さないことです。これにより、N肥効が適正に保たれます。さらに、硫酸加里を止めると、Mg/Kは2.0以上に保たれ、苦土欠は回避できます。以上より、堆肥1,000kg、有機質肥料400kg、SSR120kgの施用をお勧めします。





「農家さん訪問記」で訪れた地方の特産品(お菓子や加工品)を、愛読者の方々に抽選でプレゼントします。中身は編集メンバーが選んだ詰め合わせで、何が届くかはお楽しみ! たくさんのご応募お待ちしております!



これまでのプレゼント (写真は3名分)

応募期間：2019年4月26日(金)～5月31日(金)

応募条件：本誌のご意見・ご感想を50字以上お寄せいただいたi-農力会員様

賞品：茨城県の特産品詰め合わせ

当選者数：3名



ご応募はこちら



編集後記



次号(夏号)は
8月の発行予定じゃ♪

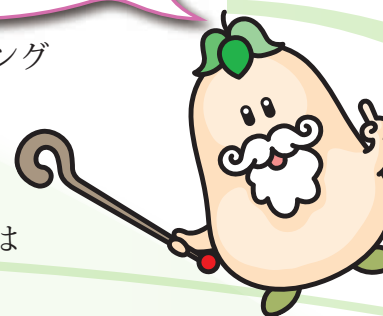
今回の訪問先は異色の経歴をお持ちの助川さん。もともとはバスフィッシングのプロのご経験があります。また、最近では友人が展開するファッション・ブランドのモデルも務めていらっしゃるようで、取材中の写真撮影でもポーズなどお手の物。ちなみにモデルを務めているファッション・ブランドは、農業を応援する気持ちから発想されたようで、訪問記文中にもあるTシャツはメッセージ性に溢れていて、「かっこいい」の一言です。

そもそも農業との接点は奥様との出会いから始まったようですが、それにしても私の数々の取材経験のなか、このような異色の経歴をお持ちの生産者に会ったのは初めてです。取材中、農業への熱い思い入れを語る助川さんは、「農業はかっこいい」というイメージをもっと伝えていきたいと語ります。

ファッションモデルを務めるのもその気持ちの表れとの事ですが、色々なご経験を糧に、これからも農業業界に新しい風を吹かせてくれる事と強く思う取材でした。

P.S.

助川さんのお米は、某有名ミュージシャンも愛食しているようです。



鈴木


2019年4月26日発行 i-農力だより 春号 通巻153号
発行人／奥橋 健午 編集人／鈴木 欣也
発行／住友化学株式会社 アグロ事業部

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCC GROUP

 住友化学

〒104-8260 東京都中央区新川1丁目27番1号

お客様相談室  0570-058-669

農業支援サイト  <https://www.i-nouryoku.com>

